

三川内支所周辺施設にかかる検討案について

1. 課題

- 効率的な老朽化対策のあり方の検討必要
 - ・長寿命化改修の時期が近づいている施設が多く、建替えの可能性も含めてそれぞれの規模や機能の必要性を改めて検討する必要があります。また、公民館ホールと講堂など重複する部屋機能が存在します。
- 各施設の目的の再確認
 - ・機能の必要性の再確認、目的を達成もしくは相乗効果を生み出すための効率の良い施設配置を検討する必要があります。
- 民間活力の可能性の検証
 - ・交通量が多く、立地的な優位性が一定認められることから、民間活力も視野に入れ、施設機能の向上、維持管理経費の低減の可能性を探る必要があります。
- 市政懇談会でのご意見やご要望
 - ・各施設の意義・目的を見直し、効果的な施設の活用
 - ・四季彩館での買い物客が増えるような魅力ある施設の整備
 - ・うつわ歴史館を伝統産業会館と一体化

2. 関連施設一覧

	施設名	所管課	建築年度	延床面積	構造	階数	耐震性
①	三川内地区公民館	商工物産課	1970	579.24	R C	2階	耐震化済
	三川内支所			101.37			
	させば物産みかわち振興センター			510.52			
②	三川内地区公民館ホール	社会教育課	1995	447.51	R C		新耐震
	うつわ歴史館			547.04			
③	三川内焼伝統産業会館	商工物産課	1981	1,822.28	R C		
④	三川内地区公民館 体育室	社会教育課	1987	400.00	S		新耐震
⑤	第7分団格納庫	消防局総務課	1979	116.42	R C		—

3. 位置図



三川内支所周辺施設の再整備に係る検討案

建物名	建築年度	機能名	現有延床面積 (㎡)	方向性 (H29～H48)	左記方向性の理由	分類	短期5年 (H29～H33)	長期15年 (H34～H48)
させぼ物産みかわち振興センター (建物)	1970	三川内地区公民館	579. 24㎡	〔 機能移転 公民館機能を うつわ歴史館跡へ (講堂はホールへ集約化) 〕	うつわ歴史館跡へ移転することでホールと一体的な施設とし、運営効率と利便性の向上を図る	施設廃止	現状維持	うつわ歴史館へ移転し解体
		三川内支所	101. 37㎡	〔 複合建替 新複合施設へ複合化 〕	必要機能として継続	施設廃止	現状維持	新施設へ移転し解体
		させぼ物産みかわち振興センター (四季彩館)	443. 13㎡	〔 複合建替または機能移転 新複合施設または適地へ移転 〕	物産機能が三川内地域にある必要性はなく、機能を十分に果たせる適地が他にある可能性が高いという反面、地元住民にとっての貴重な食品供給機能としての実態があるため	施設廃止	移転先の検討	同土地内の新複合施設 または適地へ移転し解体
させぼ物産みかわち振興センター (公衆便所)	1995	させぼ物産みかわち振興センター (公衆便所)	67. 39㎡	〔 複合建替 新複合施設へ複合化 〕	させぼ物産みかわち振興センター（建物）と併せて検討する	施設廃止	現状維持	同土地内の新複合施設へ移転し解体
うつわ歴史館	1995	三川内地区公民館ホール	447. 51㎡	現状維持	必要機能として継続	機能継続	現状維持	
		うつわ歴史館	547. 04㎡	〔 用途変更 公民館機能を移転 〕	うつわ歴史館を伝産会館へ移転し、互いの連動性を高めるとともに、運営の効率化を図る	用途変更	現状維持	用途変更
三川内焼伝統産業会館	1981	三川内焼伝統産業会館	1, 822. 28㎡	〔 複合化、長寿命化改修 うつわ歴史館を複合化 〕	うつわ歴史館との複合化により稼働率の低い部屋機能を解消し、運営管理の効率化を図る	複合化	現状維持	複合化 長寿命化改修
三川内地区公民館体育室	1987	三川内地区公民館体育室	400. 00㎡	〔 複合建替 講堂兼体育室として 〕	ホールと講堂の集約化に伴う補完的な役割を果たすとともに、公民館に隣接する支所と複合化することにより、利便性の確保と効率的な管理を行うため	複合化	現状維持	新施設へ機能移転後、施設解体
新複合施設（仮）		三川内支所		複合施設として必要機能を複合建替				
		三川内地区公民館 講堂兼体育室						
		させぼ物産みかわち振興センター (四季彩館)						
		させぼ物産みかわち振興センター (公衆便所)						

延床面積 計 4, 407. 96㎡